雨飾山

２００９年5月１０日
メンバー：平本

場に２２：００に到着する。キャンプ場の稼働はまだこれからのようだが、トイレなど綺麗に整備され快適な夜を過ごす。
翌朝は明るくなってから自然に起床し、６：００には出発。顔料か何かで赤くマーキングされた雪道を、水芭蕉を見ながら歩いて行く。
丁度今の時期はブナなどが新芽を吹き出して朝日に光って綺麗である。また、桜が満開で下界とはひと味違う美しさを見せる。山腹に取り付きブナの巨木林を進むと、何年か前に大勢で滑った開けた斜面に出た。あの時はＰ２付近までスキーで登り、ワイワイ滑って楽しかった。今日は一人なので写真を撮ると黙々と荒菅沢に向かって小沢を渡り、尾根を乗越す。
荒菅沢付近は冬季にだいぶ雪崩れるのか、立木が少ない。沢底に向かって６０～７０m位下る。写真で見た布団菱と初対面で感動である。沢筋はデブリや土砂混じりの落下物が多く、上部には巨大なブロックも見られ、長居は危険だと思い、さっさと歩き出す。でも、まさか今、雪崩が起きようとは思っていなかった。沢底の中央付近に達したとき沢上部より大音響が轟く。
『ガ、ガ、ガ、ガーン,ゴゴゴー』
『来たッ』
見上げると、左岸の支沢最上部から大きなブロックが崩れだし、沢筋を落下。本谷に落ちると今度は『ドバーン』と広がってこちらに飛んできた。全力で走り、対岸の尾根に取り付く。振り返ると、雪崩はルートの３０m位手前で概ね止まり、サッカーボール位のブロックが何個か通り過ぎて行くに止まった。
大音響から停止まで１０秒位のものである（主観）。そのスピードは想像以上で、とても逃げられるものではない。
尾根に上がり、発生場所付近を観察すると、稜線少し下に大きなスラブ岩帯が有り、その上の残雪に亀裂が多い。これの一部が滑り落ちたものと思われる。時間は９：３０頃で、この後３０分くらいの間に極小さいものがもう一回と、隣の天狗原山の中腹沢筋ではある程度規模の大きい雪崩が起きているのを目撃し

たので、気温が急に上昇して、おきやすくなった時だったのかもしれない。
下山にはもう一度荒菅沢を横断しなければならない。恐怖感を抱きながらも、あとは快適な残雪登山を続けて雨飾山の頂上に着く。
山頂からは日本海が近い。東京から日帰りで来る訳だから、思えば遠くへ来たもんだ～である。
やはり心の中には往路の出来事が刻まれて、そそくさと下山にかかる。雪がクサって団子になり歩きにくい。
今度は荒菅沢の手前で止まって、様子を見てから、一気に駆け渡った。何も起こらなかった。対岸の尾根へ上がると一気に緊張感が解けた。
本当はこんなに緊張する山では無いのだが、さすがに怖かった。
後は再びブナの巨木やら、水芭蕉やら、新緑、桜などを見ながらキャンプ場まで歩いて行った。
行きも帰りも予想した渋滞はなく、２０：００には帰宅。
今回は遠い割にはスムーズなアプローチでした。GW最終日に。

コースタイム

５月９日
町田１６：３０～雨飾キャンプ場２２：００（泊まり）
５月４日（晴れ）
キャンプ場６：００～荒菅沢９：３０～
雨飾山頂１０：４５～キャンプ場１５：３０
地形図：雨飾山